

## 令和5年度（2023年度）第1回教職員の働き方改革適正化検討委員会について（議事録）

1 日時 令和5年（2023年）7月21日（金）午後3時から午後5時まで

2 場所 宝塚市役所 4階 3-3会議室

### 3 議事録

#### 【1】議題（1）部活動における働き方改革「宝塚市における中学校部活動の地域移行について」

（説明：学校教育課長より・補足説明：委員長より）

※令和5年6月5日に行われた、部活動地域移行検討協議会の資料を中心に説明

[部活動の課題について]

- 長引く少子化に加え、日本の総人口が減少局面に入り十数年が経過し、各学校においても部活動数や部員数が大幅に減っており、生徒の多様なニーズに応じた活動の選択肢が確保できなくなっている。
- 顧問を務める教員の時間外勤務の増大をはじめとする業務負担が社会的な課題となっている。

[本市の部活動地域移行の目指す姿について]

- 将来にわたり本市の子どもたちがスポーツや文化芸術等に継続して親しむことができる機会を確保する。
- 部活動を通じて子どもたちが成長している部分があるので、その教育的意義を発展させていく
- 地域全体で子どもたちがスポーツ活動や文化活動に取り組めるよう、学校だけではなく地域の方々が入っていける形をつくる。
- 学校アンケートで引き続き学校部活動に関わっていきたいと回答した3~4割の学校教員についてはその希望を叶えられる体制をつくる。

[本市の部活動改革の方向性について]

- 今年度既に始まっていることとして、令和4年度に廃部が決定したA中学校のサッカー部がクラブ活動として地域の指導者が入り令和5年度に活動再開している。
- 令和5年度の中体連後に廃部したB中学校のサッカー部についても、今後地域の方に入って頂いて活動を再開したいという生徒のニーズに応えていきたいと考えている。
- 地域移行に取り組む部活動として、既に一部の学校だけでしか活動していないものを対象としようとしている。部員の数が少なくなって活動が出来なくなってしまった部活動などで、それでも子どもたちの選択の幅を広げられるような取組となるようにしていきたい。
- その他にも、社会団体・文化芸術団体等の受け皿の確保が出来た種目や、指導を望む教員の兼職兼

業による地域移行にも取り組んでいく。

[アンケート調査の実施について]

- 一度簡易的な学校アンケートの実施はしたが、具体的にどの学校のどの教員が部活動の指導に携わりたいのか、また子どもたちの意向を把握するのが大切なので、中学生はもちろん、小学校5・6年生の子どもたちや保護者の方へも実施していきたい。

[地域移行した場合の活動場所について]

- これまでに使用していた学校施設を目的外使用で開放する。運動場や体育館はさておき、校内の音楽室などを利用する場合などについてはセキュリティ対策などにおいて課題が残る。

[地域移行した場合の運営費について]

- 現在は生徒会の部費や、PTA負担及び市から15,000円の補助などで運営している。当然それでも足りない部活動などは部員の負担もある。それは全て部活動だから出来ていること。
- 国からの資料では、地域移行した場合の運営費については受益者負担（保護者負担）とされている。本当に保護者負担だけでやっていけるのかどうかは、PTAと協議していく必要がある。その場合に市の15,000円補助についても残すかどうかの判断も出てくる。

[各学校への説明について]

- なかなか市の考えについて説明しきれていないので、まずは学校の教員に向けて説明会を開催していく。2学期開始前後に各学校へ説明をしに行く予定。

[委員長より補足]

- 当初は国も3か年計画で地域移行を進めることとしていたが、現在は「期限を設けず」となっており、やや動きが鈍化してきている。宝塚市としては国の動きに関わらず迅速に進めていきたいと考えている。
- 今後のスケジュールについて補足。教職員への説明は2学期開始前後に行う。それに並行して部活動実態調査を8月下旬に実施する。どの程度部活動に経費がかかっているのか、また、保護者負担をどの程度求めているのかなどを確認する。
- 教職員の説明の際に、出来れば学校単位とは別に、「野球部の顧問」「サッカー部の顧問」といった部活動の種類別の顧問会のような単位があれば、そちらにも参加したいと思っている。
- 今年の初めに教員に対してアンケートを行っているが、より具体的な調査を目的として教員向けの意向アンケート（記名式）を改めて実施する。引き続き部活動指導員として携わっていく教員については、兼職兼業のことを含めて詳細な説明をしていく。
- 兼職兼業については勤務時間との兼ね合いをどうするのか、また、地域活動中のケガ等の取扱いについて保険会社や、場合によっては弁護士相談もしながら確認をしていきたい。
- 兼職兼業となると、教員としての勤務時間と、地域活動クラブでの従事時間を合算して、法定労働時間を超えていいとされる時間までにおさめなければならない。また、収入を得るとなると、教員

としての勤務時間中は活動が出来ない。一方で、ボランティアでやるとなると、兼職兼業での職専免の扱いとなるので、例えば勤務時間中に「地域部活動の指導に行ってきます」ということも出来ることになる。一般的に交通費程度の受領は報酬をもらってやっているとみなされない。

- 保険についても現在は学校教育の一環ということで、スポーツ振興センターの補償内となっているが、地域移行となると別途スポーツ保険に入る必要が出てくる。スポーツ保険は800円程度で部員も含めて全員が加入する必要がある、運営費として考慮しなければならない。また、指導員はケガ等をした場合は公務災害の対象とはならないので、公務災害と同等の保険に別で入る必要がある。その額はおよそ年間25,000円～30,000円程度と推察され、教員個人の負担になる。
- 保護者アンケートについてはWEBで実施していきたい。今の段階でどこまで希望を聞けるかは未知数。
- 地域移行した活動と、部活動との棲み分けはなかなか難しい。なので移行すると決めたら一斉に進めていかなければいけないと考えている。
- 進める中で、部活動をやりたくない教員に対して、強制することはあってはならない。なので、指導者になりたくないという教員が多ければ一時的に部活動は減るかもしれない。

[質問①] 小学校の教員でも中学校から来ている教員もいるので、その教員が指導員をやりたいと言うこともありえるので他人事では無いと思って聞いている。地域移行の理想は全てを地域に任せるという状態だと思うが、移行期において学校単位において「地域部活動」と「学校部活動」が混在する状態が必ず出てくる。その時に教員ごとで待遇に差が出ないか。(小学校長)

⇒運営主体が違ってくると待遇に差が出ることは明らかなので、そうならないように、可能な限り一斉に進めていくことを考えている。例えば中学校の最終下校時間を16時～16時半として、教員はその後に兼職兼業の地域指導者として各地域の指導に入っていく。(委員長)

[質問②] その学校の教員が部活動を見ている場合には兼職兼業に当たらないと思うが、地域に行った途端に兼職兼業になってしまう。(小学校長)

⇒指導場所がその指導員となる教員が務めている学校であっても、兼職兼業になる。地域活動という位置づけになる。例えばC中学校の先生が、C中学校において指導員となった場合に、部員が全員C中学校の生徒だったとしても、地域活動との位置づけになる。(委員長)

[質問③] その場合は学校と切り離すという意味でも、地域活動クラブを法人とみなさなければならないのか。(小学校長)

⇒少年野球チーム等と同じように、教員を代表にしなければいけない。法人というよりは団体。団体から依頼を受けて指導に行っているという形態になる。(委員長)

[質問④] 例えばD中学校において指導員に名乗り出た教員が、年度末に異動となりE中学校勤務になったとして、重大な生徒指導事案がE中学校で発生しても指導員業務を優先してD中学校に向かってもいいのか。(中学校委員)

⇒D中学校とE中学校が物理的に遠い学校であれば、平日における地域活動の指導は難しくなる。部活動の種別ごとに10名くらいの指導員でチームを見るのが理想。異動で遠くに行ってしまった場合に、近くにいる指導員に見てもらえるような体制を検討したい。また、ボランティアにしても兼職兼業にしても、本業に差し支えない範囲での活動が原則となるので、業務に戻るよう依頼があればそれに従わざるをえない。(委員長)

[質問⑤]今はやりたいと思っていた教員が、生活環境等の変化によりやめざるをえなくなった時にはすぐに辞められるのか。後任を自分で探す等の縛りが出てくるのか。(中学校委員)

⇒中体連等の登録でどう判断されるかという課題はあるが、運営主体は基本的に複数人でと考えている。何かあった際に補完し合える環境でなければならない。直接指導は出来ないが、運営の手伝いくらいはしたいという地域の方等も含めて考えていきたい。(委員長)

[質問⑥]地域の活動開始時間を16時や16時半とすると結局は教員が見なければいけないということになる。時間的に地域の指導者が見れる時間設定をすべき(中学校委員)

⇒具体的に地域に投げかけている訳ではないが、既に地域移行をしているモデル地区などにおいて60～65歳の地域指導者がいる。活発な指導は出来ないけれども子どもの横にいて練習を見るくらいの程度でやっている。若い方は土日にメインで教えて役割分担をしているという例もある。また始める時間については、子どもたちにも移動時間等があるので、実際はもう少し遅い時間で調整する必要があると考える。(委員長)

[質問⑦]保護者や地域への啓発は行政としてやって頂きたい。一部の方にはやはり根強く学校の先生がなんで見ないのかという意見もある。そうならないように進めて頂きたい。(中学校長)

⇒そうならないように教育委員会が方針をしっかり定めて直接説明していきたい。学校運営協議会にも参加させて頂いて教育委員会が説明を行う。部活動の地域移行の話だけではなくて、学校に対して過度の要望を持っていないかという疑義は投げかけていきたいと思っている。本来の教員の業務を今一度考えて頂く機会を作っていきたい。地域の中で取組みをしていける環境を整えていきたい。(委員長)

[質問⑧]地域移行となると学校教育活動から離れるので何とも言い難いが、子どもたちの部活動が保護者負担での実施となることや、活動時間が遅くなるという話を聞いて、それが健全なものと言えるのか疑問が残る。(小学校委員)

⇒経費面においては、現在の部活動でもPTA会費や、市の負担分について県や国に負担を求める要望はあげていきたいと考えている。(委員長)

[質問⑨]活動場所としてこれまでの施設を継続して使用するとあるが、小学校の施設が使用されることもありえるのか。(小学校長)

⇒可能性としてありえるが、小学校は今でも社会体育団体が使用していることもあるので、現在使用している団体との調整が必要になってくることから、基本的には今までやっていた活動場所からスタートしてもらうことを考えている。現在モデルで実施している中学校も運営主体は小学校のサッカークラブ

だが、中学校のグラウンドを利用している。(委員長)

[質問⑩]地域移行で学校から切り離れたというものの、学校で起きたことは結局学校に帰属してしまうのではないのかという不安の声がある。例えば行政が相談窓口のようなものを設けていただければ大変ありがたい。(小学校委員)

⇒基本的には教育委員会に相談窓口を設けて、何かあった際には対応する。ただトラブルの内容によっては学校と繋がなければいけないこともあるかもしれない。クラブの中だけの問題については教育委員会が中に入って解決に向けて取組む予定。今後制度として確立されたらまた説明する。(委員長)

[質問⑪]長期的な視点から、地域移行がスタートした後に、環境変化等があった場合、どのような条件でクラブを増減していく等のルールはあるのか。(中学校長)

⇒先のことはまだ決まっていないが、この委員会や部活動地域移行検討会議を継続しながら運営状況を見て検討していきたい。国が示しているのも地域移行するまでの指針なので現段階では何とも言えない。(委員長)

## **【2】議題(2) 令和4年度当委員会での意見集約と今後の対応について**

(説明：各所管より)

※説明内容は資料に沿って行っているため、質疑があった項目のみ記載。

[栄養教諭がいない中規模校で給食担当の教員が不慣れな業務を行って時間を取られている]

- 担当者向けに給食喫食者数人員報告の研修と、学校給食におけるアレルギー対応の研修をオンラインで2回ずつ実施。令和5年度は4月7日と4月10日の2度に分けて実施済み。

[質問①]開催については感謝の言葉しかない。参加状況はどうだったのか。年度当初で知らなかったという教員もいたし、引き続き実施をお願いしたいと思っている。(小学校委員)

⇒2日間実施で、4月7日に開催した喫食数報告に関する研修に参加された方が9名で、アレルギー対応の研修については8名。4月10日については両方とも8名。合計すると16~17名の参加となる。(学校給食課長代行)

[部活動の早朝練習の廃止について]

- 早朝練習廃止についてはモデル校を決めて検証する。その結果を踏まえて無くす方向に進めるか決定していく。詳細については中学校長会とも相談していく。

[意見]業務改善につながることで、是非推進をお願いしたい。(小学校委員)

[市内白書について廃止も含めて検討してはどうか]

- 令和4年度より提出の仕方が簡素化されて校内の内容をそのまま報告する形で良くなったので業務削減につながった。今後も状況に応じて宝塚市人権・同和教育協議会内で冊子の取扱い等を協議していく。

[質問②]白書活動の実態を教育委員会でどう考えているのか。白書活動自体は個人的には必要だと思っ

ている。それをまとめて冊子にするのが必要なのか。学校内での取組みをまとめて共有することで理解を深めていると思うが、お互いが共有する時間がない。個人が作ったものを共有することなく提出して、誰か分からないようにして市内の白書にまとめて何の意味があるか分からない。本来の主旨と離れているのであれば一旦整理して続けていくのか、廃止も視野に入れるべきではないか。(小学校委員)

⇒白書委員会では宝同教の会長と副会長が白書の意義を説明する。説明会の中で、白書が全校に配られているが、どう使っているか分からないという質問があった。そこについてはどう使うか考えるのが、白書担当の教員の役割ではないかと申し上げた。質疑であったように、学校内で共有されているという前提の元で、そのように申し上げたが、実際にどのように学校で取り扱っているのかは宝同教でも把握していない。会長との間では、この冊子の取扱いについてどうすべきか検討するという話はしている。

(小学校校長)

[質問③]冊子になる時点で、具体的に教員がどう接して、児童生徒がどう変わっていったかということが隠されている。それを読み返したところで、書いた先生に聞かないと分からない。具体的なことは掲載出来ないし、個人名も使用不可。こういった冊子を作る意味があるのかというのが質問の意図。校内で実例を共有するのは凄く良いことだと思っている。(小学校委員)

⇒今年度は難しいかもしれないが、宝同教の全体会に働きかけて、次回以降の計画などを変更するか協議することは出来るのではないかなと思う。(学校教育室長)

[研究紀要のデータ化による冊子廃止について]

- 現在は指定研究事業の研究指定校(2年目)と単年度指定校を除いて、研究紀要をデータにするか冊子にするかは学校で選択可能となっている。市外や教職員以外の方へ配布する場合や、各校で校務用PCを割り当てられていない教員が閲覧したい場合なども考慮して、冊子もしくはDVD等への記録も残しておく必要がある。

[質問④]研究指定校については理解できるが、それ以外の学校は選択可能ではなく、データ化するのが一番だと思っている。選択制にしていることの原因を確認したい。学校はフォルダにデータ保存でいつでも参照できるし、外部の方へはDVD等への対応で済ませれば費用削減にもつながる。データであれば学年ごとや教科ごとで分けて保存してもらえれば参考にする教員は多いと思う。これについては早急に進めていただきたい。(小学校委員)

⇒担当課がないので、次回検討委員会の中で方向性を含めて協議させていただく。(職員課長)

[教科ごとの担当者会の廃止について]

- 教員一人一人の専門性の幅の広がりにもつながるし、市や県の情報を持ち帰って共有する意味でも担当者会の役割は重要と考えている。担当者会の中身の見直しについては校長会とも検討していきたい。

[質問⑤]情報を持ち帰って共有するのが重要なのであれば連絡だけでいいと思うし、担当者会の負担も考慮していただきたい。例えばWEB会議に変えるだけでも出張旅費が削減できるし、中身の見直しに

について検討して頂きたい。(小学校委員)

⇒今後担当者会の中身について校長会と検討していく。

[授業時数について]

- 総時数がオーバーしている学校があることは理解しているが、時数を確保するために行事やモジュールを読み替えている実態もあるので、実際の総時数で見ると教科によりギリギリのところもある。
- 神戸市では文科の指導要領に基づいた授業時数の確保については、内容も含めてしっかりと考慮していくと校長会との間でも話し合いをしているとのこと。そのうえで、年間実施計画の段階で30時間ないし40時間程度オーバーする計画を立てており、それでも更にオーバーするところについては、週1日5時間の日を作っている。具体的に今年度から進めていることなので、うまくいくかは状況を見なければ分からない。
- 実際に小学校の低学年では大幅にオーバーしているところも市内ではあるので、中身を精査しつつ神戸のやり方を応用することは検討の余地があるかもしれない。

[質問⑥]通常授業をカットすることで教育課程の内容が充分指導できなくなる可能性があるとはどのような状況を想定しているのか、また、行事やモジュールの読み替えは文科省も認めているところのはず。職員会議がある時に5時間にするとか、ノー部活デーに充てることなどの取組みは小学校などの学校にも情報提供して欲しい。(小学校委員)

⇒行事やモジュールの読み替えについては、中身を伴っていればというところで判断をしていきたい。教育課程の話は学校の判断となってくるが、委員会としても市内だけではなく、他市の事例も提示しながら、学校ごとに「こういった取組も出来ますよ」ということは提示していきたいと思っている。(学校教育課長)

### 【3】議題(3)教頭の働き方改革に関するアンケートの実施について

(説明：事務局より)

- 令和4年度の記録簿集計において教頭の超過勤務時間が上限規則を超えている。また、昨年度第3回の本検討委員会においても教頭の業務改善について意見が出たこともあり、6月下旬に教頭経験者である学校長に依頼してアンケートに回答して頂いた。
- 自由記述部分についてはこちらで任意にカテゴリー分けさせていただいている。

[質問①]教頭試験の受験状況はどうなっているのか。(中学校長)

⇒中学校と小学校とで差があるが、想定する必要数には達している状況。(職員課長)

[質問②]留守電の設定時間について、勤務時間を考慮すれば17時に見直すということも検討の余地があるのかと思う。またTeamsを活用したオンライン会議の活用促進も図っていただきたい。似たような

照会文書というところでは、校務分掌ごとでも似たような数字を報告することがある。整理は最初大変だと思うが、文書の整理を進めて頂ければありがたい。配布物についても小学校については非常に多い。特に入学式等でデジタル配信出来るものはデジタルにしていければ大幅に業務改善につながると思う。(小学校委員)

[質問③]教頭の鍵閉めや授業負担を無くすことが決まって、実際に負担軽減となったという意見は取っているのか。また代替について、教頭が病休等した際には代わりの方は来ないのか。また教諭でも担任が病休にならないと代替が付かないというのは本当か。(小学校委員)

⇒教諭の代替については、休む教諭が担任かどうかは関係なく、配置することができる。ただし、教頭の代替についてはそもそも想定されていないので、市教委がサポートに回る。教頭の鍵閉めや授業を持たないことによる負担感が減ったかどうかについては、具体的にアンケートは取れていない。先ほどの質問も含めて、本日は時間もないので、次回以降の本検討委員会で掘り下げて協議させてもらえればと思う。

[質問④]学校ごとにデータを保管するフォルダがバラバラなので、統一出来たら異動した際のデータ検索などは自分出来るので、教頭先生の業務削減にもつながるし、教員の業務改善にもつながると思う。また現任校では Teams を使用した情報連絡が頻繁に出来ているので、こういった活動を広げていければ市内全体の業務改善につながると思う。(小学校委員)

⇒おっしゃるとおりで、次回検討委員会等で掘り下げて協議する。(職員課長)

#### **【4】議題(4)その他意見交換**

[意見①]議論終了となっているが、教科書担当の研修会についてはどれだけの人が活用したのか知りたい。自分が聞く限りでは、課題解決に繋がっているとは思っていない。担当がいないのであれば次回以降確認して教えて欲しい。

[意見②]懇談の予約システムについてF中学校で実績があると聞いている。アンケートも取られていると聞いたので、その結果のフィードバックをしていただきたい。

[意見③]持ち帰り業務については、ログの把握は困難ということで理解したが、無くなっている訳ではないので、今後この問題については検討していただきたい。

[意見④]スクール・サポート・スタッフの活用状況について、活用事例を周知している学校とそうでない学校で分かれてしまっている。しっかりと活用できるよう周知して欲しい。